

社会的な見方・考え方とは、社会的事象を捉える「時間・空間・相互関係」などの視点や、事象の特色や意味などを考えるために捉えた事実を比較したり関連付けたりする方法です。単元などのまとまりの中で児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせるように、視点や方法を生かした考察や構想に向かう「問い」を設定し、その構成を工夫することが大切です。

新学習指導要領解説を参考に視点を導き出し、①社会的事象の事実を捉える問い、②捉えた事実を比較したり関連付けたりして事象の特色や意味を考える問い、③社会の在り方や自分たちの関わり方を判断する問い、などを適切に位置付けて思考・判断させることで、事実等に関する知識の習得にとどまらず、概念等に関する知識の獲得につなげていきます。

小学校第4学年「飲料水」の学習
【課題追究場面】での問いの例



単元の学習問題

なぜ、私たちはいつでもきれいな水を使うことができるのだろう。

☆新学習指導要領解説では「供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力など」に着目するよう示しています。これを基に、資料を活用しながら見方・考え方を働かせるように、単元の学習問題と毎時間の①～③の問いをつなげていきます。

1 ①の問い：位置や空間的な広がり の視点

飲料水は、どこからどのようにして、私たちのところに送られてくるのだろうか。

仕組みや経路を図にまとめるなどして、飲料水の供給の様子を捉えさせます。（事実等に関する知識）



- ・川の水が浄水場や配水池に送られ、そこできれいにされてから私たちのところに届くんだね。
- ・配水管が整備されているから私たちに届くんだ。



2 ①の問い：時期や時間の経過の視点

昔はどのようにして飲料水を確保していたのだろうか。



今と昔の違いに着目させることで、健康に意識を向けさせます。年表を活用し、飲料水を供給する仕組みの改善の歩みに気付かせると効果的です。

- ・昔は井戸水を飲んで病気になる人もいたんだ。
- ・今はきれいな水が飲めて健康に生活できるね。



3 ②の問い：調べたことを生活と関連付ける方法

水道局は、どのような役割を果たしてきたのだろうか。

飲料水を供給する事業が生活に果たしてきた役割を考えさせ、事象の意味を捉えさせます。（概念等に関する知識）

- ・私たちが安心して安全に水を使えるように、仕組みを整えるなど、工夫や努力をしてきたんだ。
- ・私たちの生活の向上に役立っているんだな。



4 ③の問い：自分たちの関わり方を判断する方法

これから先もずっと水を使い続けていくために、私たちはどうすればよいのだろうか。

水は「限りある資源」という視点から、「自分にできることはないか。」と問い、水利用の在り方について考えさせます。

- ・トイレやシャワーを使うときは、水を無駄にしないようにしないとイケないな。



「時間・空間・相互関係」は社会科の追究の基本的な視点ですが、地理的な内容（位置や空間）に歴史的な内容（時間）を加えるなど、視点を組み合わせて考えさせると、学習内容をより深く理解させることができます。